

えしたい。 大勢の方々に助けて頂きながら私の怪我も快方に向っていることをお伝

る。 も俳句は必ず平常心を取り戻してくれることを知った。 責を私は大事に受けとった。俳句の仲間とは心が通じ合う。 我のため欠席された由、どうなさいました。……年には勝てないね。 トトギス大会に欠席した私に一筆温かいお言葉を頂いた。「北海道大会怪 様を亡くされて「ホトトギス」を伴侶にすると言われたKさんも北海道ホ て申し訳ないが、体調の許す限り努力しているのでお許し頂きたい。 れた会の選は、何とかする事が出来たが、色々な会などの選は遅れてしまっ いに頑張りましょう」と書いて頂いた。九十歳の年齢のKさんの温かい叱 「天地有情」の選句をしていると句稿の裏にお見舞のお言葉が書かれてあ 六月二十日過ぎから八月一杯、全ての会を欠席した。私の後選を希望さ ホトトギスの仕事は遅れる訳には行かないのでそれらを優先している。 お返事は出来ないが、私はそれらを励みとして元気を頂いている。奥 逆境にあって お互

# 句 日

# 記

子

川 名

め 冬

る 0)

木 紅

Þ 葉

名 に

苑

年

用 ば

ŵ

抱

き

7

去

年

**今** 

染

5

||月十三||日

共同通信より依頼

知

0) 込

庭

そ ŋ 苑

ぞ

ろ

行

け

ば

水

音 0) ま

冬

0)

滝 意 B

+

一月十三日

大阪倶楽部

ど

残

L

た

1

一月六日

# 汀

# 月 百

### 0 葉 鳥 雨 踏 0) 小 む 翼 春 音 日 た 落 和 葉 た を 降 連 み る れ ぬ 音 7

## <u>±</u> 一月四日 「笠寺」五百五十号

祝

# 十二月四日 下萌句会

### 来 る ほ 筈 風 0) 人 靡 待

## 月 吾日 ロイヤル俳壇

ح

0) Ű

雨

0)

上

ħ

ば

寒

<

な

る 道

と L

Ŋ る

初 食 月

雪

の 0) 0)

題

は

軽

<

聞

<

ば わ

か い ح

ŋ 蟹

卓

寡 話

黙

0) 極

時 月

間

ず

ŋ

蝕

一月十六日

雨句

替

7

お

球

幾

年

用

意 ふ ベ つ

+

月二十

日

夏潮句会

き

ポ

イ

セ

に

旅

帰

ŋ

雪

0)

便

ŋ

0)

被

災

地

### 快 鶴 晴 Ö 事 喜 明 ŋ ベ る 残 き ば 未 朝 来 冷 る 約 た 日 L 短 け

## 一月六日 有恒俳句会

### 紅 葉 尽 せ る 色 を 水 葉

置

息 作 飛

白

L

た

か

括

7

ゐ

報 間 芽

債

を

仕

げ

る

と

ŧ

年

0

ŋ ぶ

置 も

< 0

お は

C 飛

h

に L

留

守

0 な

日 冬

紅

ほ

7

そ

0)

家

0)

客

と

な

ば

光

る

木 葉

染

暦 き

頂

<

年

0

縫

ふ

鍵

か

け

7

旅

立

つ

朝

0)

息

正 稿 冬 草 葱 名 初

月

盆

栽

が

先

づ

届

き

to

る 暮 る 暮 ふ な 5

## 迷 路 と ŧ 冬 紅

0)

中

被

災

地

は

初

雪

と

聞

<

ば

か

ŋ

か

Н

天

を

待

つ

日

に

句

会

所

街

た 月

た

び

は れ

会

 $\wedge$ 仕

ぬ

温

顔

落 る

葉

来

雪

と

な

ŋ

さ

う

な

空

模

様

か

と

い

ろ

る

を

心 L

走

بح

7

師

走

れ

て

ゐ

る

ح

بح

日 月

ŧ

亦

富 š 体

士 そ

見 ぞ

ぬ

帰 な

路

B 目

短 重 時 踏 う

### + た 月 す 5 悼 な 井上弘堂様 祈 ŋ 届 か ず 露 寒

好

き

な

ح

い

 $\wedge$ 

る

仲

間 を

بح

ゐ

7

師

走 往 ŧ な な 走

 $\pm$ 

一月十三百綿業倶楽部

き

た

<

7

書

け

ぬ

文

 $\Box$ 

短

木

立 の

き

光

ま

と

Ŋ

け

<u>±</u>

一月六日

忘年句会 と 車 師 初

混

む

師

走

0) 忘

街

往

左

霜 今 霜 短 ふ 霜

月

0)

事

件

身

近

な

ح

と

بح

て か ね 間 み

V

白 朝 落

### < 心 ŧ 7 爽 B か に 集 は れ ょ L

冬

灯

明

る

き

人

数

文

章

0)

敵

重

ね

師 け

走 ŋ

矩 冬 書

日

暮 明

れ る

7

落

着

<

人

か

な ŋ か

PDF= 俳誌の salon

## 心 0) 枯 尾 花

## つ 冬 0 灯 を 明 <

今

日

+

日

稿

又

十二月八日

清交社

並

た

る

ポ

イ 月

ン

セ

チ

ア

0)

## ざ る を 悼 み 7 冬 0) 朝

還

5

## 打 ち 短 日 旅 に 発

弔

電

# を ŋ بح

## や と を た 詫 び

## る き ح

な

が 5

か

一月九日

極 届

月

0) ゐ

記

読

3

返

l

読

み

返

L

苑

بح

い

さ

う

な

冬

紅

葉

か 及

き

ざ

み

置

つ

何

に

で

ŧ

使

# 順

## 手 0) 冷

# 握

# 仕

### 路 と も

# た

# 又

## 忿 匈 個

## 廣 太 郎

月

月 カトリック新聞選者吟 やひ ない 7 山ゆ 茶く 花 風 な 0) ほ

秋 灯 戸 使 祝 詞 を 覚 え る

かどさ募かけしあけな なによるなりたりりる 文明と町とは人の土筆会に年句会 明 が 距世い とて <sup>こ</sup>保別ゐ そちにる 年つあ天 忘つり与

-き元 き…

こ 散年、き元き

Ш

静来流りり

品ほけてれにま多

は冷べれない

視気こ声師

線にとを走

あな数なかる

り人

立闇父 日「玄海」二百号記念前夜句会、土真筆の声館に開きがいでをりぬ虎 ちにの豊 筆い級 溺 L ので河 れ 浜て 声を川 名 を 湖り聞 虎を虎にく か早らな会聞落幅落け泊 く笛に笛りり

育屋ホトトギス会

Щ

茶

くと葉

問

のす

り

橋

むにの

Щ

んを日と

で目のい

ゆ覚鍵の気

車さ齟飛

飛

小 幕

窓せ齬翔 ざ日々を過れる 人 波明けて博多の 美 女 し冬の と 野て う 人 と 獣 暮

スマ 吾日 か 音マス にス君 野分会芦屋例会 な 更神と未 けのは来 赤炭 ゆ子い火 く羊ポの 山たシェルシェに か我かあ な等なり 枯 + 山日湯思湯鴛湯 眠のざ羽ざ鴦ざ

口の気持も 5 に

ひ冬鶴の が 近気 れ つて てたを 留るり 守しに のEけ 店Dり

戸

景

返

る

気あ 子 品り

l 題した君る ロ朝日カルチャーな クテル 美 魅眠月へま羽ば のでにか 多 つ山ど に暮 つ川と思君してに君れての ·若草句会 ろひとてな で託はゆ見 ら届し 終 しだら ざかな く下 りざくけね水せ しるてりば面り なしらる

三 葉 帝 足 蟹 因と 骨幡扉は も小春の風に 糶て派 B 5 かる松 ゆ生葉

+ 聖 + 猪猪こ山 + そ枯未枯紅冬 + 吉春冬鴨道 + 松冬妻 | 備支ざ浮迷 かふせ ゛べて + と 」の景 。 出楽 来し 疾よ一上み く活蟹 さりつるに

三鍋鍋い鯨 の蓮だれきの 二月 及劇へロデになつた を と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 文 度 と は 名 園 の 本 の を 褥に れ 尽 す も の を 褥に な 点 し て 万二十三日 哲 大切会気年句会 万二十三日 野分童東前会 万二十三日 野分童東前会 万二十三日 野分童東前会 万二十三日 野分童東前会 万二十三日 野分童東前会 てをあったしぐ 友と実の思案が 枯に三冬冬其 しかかん るけ沢川の処 てななで るり川原川に

二月. 夜 **| 待** 降節の カトリック新聞選者吟 只 僕 で 中 L た に

月

ゆ数曽数数 + 神 たへ相へへ 日日 ん日 ぽや母とや ふ九 九 へて 耳 り はに 見 しやな何 夢頃空ら時 がのご ぬま 違こつもで ふと風のも

草

れ

あ

り

7

径

な

き

河

八

尾

下

た

す

5

さ

う

に

蟻 原

0) か

足

# 選

美 ħ 典 東母手波夕夏懐水白父夜濁合都箸 崩木未 歓 0) O先 れ ŋ ιŢι 天 秋ホテル 咲いて風 落ちさう 日 なる 閉 な ぷるぷ き 0) 大 白 つの のキー の一樹となつてを 気 な帯景 涼 に る 吅 サ を を 海 透 力や雲 1 き を受けとれ に けて夏 景 ス きし か 0) 夕 料 き 父 ば峰 り 立理氷す る 我 龍ケ崎 東 東 香 京 京 Ш 今橋眞 同 石 同同 同同 同同 湯 Ш 本くに Ш 星水 璭 女 雅

手子ざ蛍境あああ露俳 吾角ひ ぢさゐ ぢさ 句 0) 身 するとは 0) ゐ 旬 句 0) 0) に 濃くなる色を 淡 救 爽 き色 は B 7 ゆ るるてふこと かに生くる < なる 道とな 競ひ 洗 を ح る と ふ 運 り 熱 奈 海 良 同 同 同同 賀しぐ 歩

百 同

ぢさゐ

0)

終りなき色とも見た

る

内

神

慮

0)

0)

り 火

がに

0)

涼

L

き 等

Ш

鼓

聞

< る 獄

孫

宿

昼

松

本

唐

澤

春 城

山の花

手

0)

羅

れを

切 添 綺

る

だ

け

ŧ

1.

7

を

5

ず

鴎

を は少し

休 寝

7 フ

母

を

手

伝 題

z

大 袓

き

<

7

ま 夏 奈

0)

に

星

と

な

福 同 下 陶 子

東 京 大 同同 久保白村

緑坂水一耳

に

如 展

<

木

闇

に

汗 入

解

に

虚

子

旬

碑

と会

S

君 き

降

りて

れ

ょ を

لح

溝

を

過

B

さ

き あ 庭

雨

け 埋

> 音 菅 蚕 か 鉄 7 砲 ふ 父 き ゆ と遊 ひ 揮 き 5 罶 と 毫 塊に 夜 O出 会ふ 迫 食 を り 思 火来か夏 偲 なな僧かるな館び敵 神

ぐ 7 取 0) 井 香 端 花 む 花 膝 居 火 かか /\ な 同 河同同 涌 羅 由

袋 東 井 同同湖 同同 東 紀 子

服 兵 校  $\sigma$ 

戸 同 田 佳

乃

同同山

京 野 美 奇

美

# 雑 詠 旬 評(十一月号より)

むつみ・眞理子・靜 明·中 正·千鶴子

# とほ歩・廣太郎 龍

## 面 ع い ふ 満 開 や花 菖 蒲 熱 海 嶋田 歩

は水に映らず花菖蒲」の句も浮かんでくる。一面というのは、水 る菖蒲園の句であろう。また、菖蒲は水辺の花。年尾先生の「紫 れて静かや花菖蒲」の句を想いおこす。その一花一花の咲き満ち によってうかがえる。菖蒲といえば、虚子先生の「はなびらの垂 りをいうのである。そのことは、「満開や」という「や」の詠嘆 の面に映る菖蒲にも及んでいく。(憲明) 方の側面をいうのではなく、面の全体、あたりいっぱいの花盛 菖蒲の花がすっかり開く。どの花も、どの花も。「一面」は、

い。(中正)

とってもかけがえのない方を失った。心からご冥福をお祈りした

されたものではあるが、広大な庭園の一画を占めるこの花の咲き にある菖蒲園で、満開のこの花を見る機会がある。人工的に栽培 筆者は毎年この季節になると、必ずとある東京都心の名園の中

> りと表現し切った美しさがある。(廣太郎) ようは、確かに立体的というより平面的な広がりがある。 すっき

## に病みいつしか蛍飛ぶ話題 長 崎 石 Ш 玄 能

ダーとして長く活躍され、誠実な人柄で多くの仲間から慕われた が、このたび亡くなられた。伝統俳句だけでなく九州俳壇全体に みの余韻が、まことに大きく深い。 するものである。この句も、「~話題」と読み終えたあとの悲し 移ろいに託して詠み、そうすることで、さらに豊かな情感を表現 私たち自身の喜怒哀楽を直接詠むのではなく、より大きな自然の しか」から、作者の嘆息が聞こえてくるようだ。私たちの俳句は 長い病への倦怠と、回復への願いが切々と伝わってくる。「いつ この句の作者は、こうした私たち伝統俳句の長崎におけるリー 春に入院したまま、いつの間にか蛍の頃となった。一句から、

はお元気にお世話をされておられた事を思うと残念でならない まわれた。先年、九州ホトトギス俳句大会が長崎で行われた時に 一層の切なさを感じる。(以下略 作者は惜しくも平成二十四年七月十七日に帰らぬ人となってし 闘病の姿が見て取れる句である。季題が「蛍」である事に、



5 遠船天芒蜩高秋 よ竹あ暖 湖 彐 亀 拭 母 きヨッ 神 は め か 野 ツ 鳴 0) 原 O皮脱ぎつんぼうより  $\vdash$ き を ょ 0) ふ に 恋 ょ 風  $\vdash$ ど は ぎつつ子 旬 へば 閣 5 鳴 あり思ひ 旬 んどこ あ 0) 横 海 り賑や る青 花 碑 < 0) 旬 た わ 立 門 碑 家 が は 秋 船 春 5 た Ł 出 か を 息 を に は を の息づ すよき に 風 風 始 育 7 瞬 人等 を 火 بح 放 ち 吹 果 な 隣 ŋ せ か 役 つ 来 雨 け る 家 者 ぬ ぬ り み V つ に 男 相模原 橿 東 福 熊 京 同 東 神 戸 原 京 Ш 本 都 京 今井千: 同 同 稲 後藤比. 同 稲 宮 長 百 畑廣 賀しぐ 尚 Щ 村 崹 畄 中 純 あ 奈夫 太郎 正 正 4 長 也 坂虹虹青月 虹 遭 夕夏 朝 夢 炎 夕 消え とい 上 空 帝 0) 難 い 生 焼 に 多 顔 から ŧ 碑 げ 0) 7 ふ消え ま 午 <u>1</u> しま 離 で 東 後 如 < ば 5 紫 れ 未 尽 本 0) り 0) 京 < ゆ あ か L てゐ へど僕に う 道 登 き 紅 り の 方よ くことを 子 り 日 Щ す で 茶 ぬ た 規 0) ょ Ł か で を あ 邂 り い ح 段 庵 記 欲 あ とき 7 5 消 あ り 逅 糸瓜 と 田 りに L 仰 り ゆ 大 明 明 蛍 蛍 さう : ぎ 見 が 0) ざ 夕 け 咲 0) と と け あ た < 2 う る な ŋ ŋ る 径 る 焼 り き き 龍ケ崎 神 箕 吹 東 宝 金 神 熱 戸 京 塚 沢 戸 面  $\mathbb{H}$ 海 河 同 藤 井 同 岩 同中 同 嶋 同 上 同 後 同 安 同 上浩 野 村 﨑 浦 杉 田 藤 原 <u>寸</u> 美 昭 惠 隆 暮 代 潮 葉 奇 郎 子 世 夫



歩

# 天地有 旬

汀 子

> トにはある青春の息づかひ 神 戸

後藤比奈夫

ヨッ

若者の夏への思い。

の 夜 生 活 の 音 ŧ な き 隣 家 橿 原

稲

畄

長

秋

過疎地。

自然豊かな生活との別れ。

病む母上への切なる思い。

母

生きよ今日立秋

の 風 吹け ば 神

戸

Ξ

村

純 也

蜩

の

ょ

<

鳴 <

家

を 手

放

せ

L

神

戸

長

Щ

あや

暖

かき絶

句の句碑として永久に

東

京

稲畑廣太郎

天神さんどんどこ船に始まり ぬ 吹

田

宮

﨑

正

天神祭をなつかしむ。

句仏十七回忌の虚子の句が句碑に。

とい ふ闇横たはり花火果つ 奈 良 古賀しぐれ

琵琶湖の晩秋。(以下略)

命の継承。

竹は皮脱ぎつつ子らは育ちつつ

熊

本

岩

岡

中正

湖

PDF= 俳誌の salon